

平成 22 年 12 月 1 日

「“ ふくしま ” の科学を考えよう！ “ ふくしま ” の科学を楽しもう！！」 福島大学の科学普及活動 spff シンポジウム & サイエンス屋台村のご案内

日頃より、本学ならびに「ふくしまサイエンスぶらっとフォーム」事業の科学普及活動の取り組みにご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて本県における科学普及活動に関して大学・県・科学系博物館・研究機関・生涯学習施設・企業等が連携協力して取り組んでおります「ふくしまサイエンスぶらっとフォーム（spff、以下 spff）」事業も、設立から 3 年目を迎えました。

本プロジェクトでは、単に大型の科学イベントを実施するだけでなく、科学普及活動をめぐって、その方法やプログラム・教材等の開発と共有化、活動の場の拡大、本事業をとおして普及する側の人材育成を目指し取り組んでまいりました。お陰さまで、**設立当初 10 の参画機関が現在では団体・個人を含め 28 にまで増やすことができ、活発な活動を展開しております。**

この度、活動開始 3 年目の節目の年に、活動の成果報告の一環として以下のイベントを開催する運びとなりましたので周知及び当日の取材等につきましてよろしくお願い致します。

1 日目 シンポジウム「地域における科学技術理解増進活動のこれから」

全国から先進的な科学普及活動の取り組みをされている有識者を招いてシンポジウムを開催いたします。そこではまず講師である国立天文台の縣秀彦（あがた・ひでひこ）氏による「サイエンスコミュニケーション活動における研究機関の果たす役割について」の講演をいただきます。

縣氏は数年前に小学生向けの教育調査で「太陽はどの方角からのぼるのか」等のアンケートで衝撃的な報告をされて「理科離れ」実態の一端を明らかにしたことで著名で、また現在もご専門の天文学のみならず、ひろく科学普及活動に取り組みおられます。

続いてのパネルディスカッションでは、本学と同様に地域の教育資源等を活用して科学普及のネットワーク作りに取り組んでいる 3 名の有識者をパネリストに招き、本県のような地域における科学普及のあり方について、様々な意見交換を行う予定です。

本シンポジウムは、地域の教育資源の活用に興味を示す学校教員だけでなく、県内各地で科学普及活動に取り組む様々な機関の皆様にとって大変興味深いイベントであると思います。また 4 名の著名な講師陣が一堂に会する機会もないことから科学館関係者、その他の多くの県民の皆様にも本シンポジウムの開催と参加を周知して頂きたいと存じます。

2 日目は spff 連携参画機関が各施設の特徴を活かした 30 を超える実験工作ブースを設け、「五感の科学」と題して、子どもから大人まで体験できる参加体験型の科学イベントを開

プレス発表資料 2

催いたします。各ブースには「見る」「聴く」「におい」「味覚」「さわる」など五感に関するサインを掲示し、各種実験工作メニューと人間の感覚との関わりを意識してもらうような内容になっています。

また本イベントには、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業指定校でもある福島高校の協力を得て、福島高校の生徒も科学ブースを担当し、また安達高校科学部の生徒も参加するなど、spff 活動の輪を広げております。

また、同日の午前中には本学共生システム理工学類の学生の教育 GP の成果発表会も予定しております。

以上のように、科学普及活動において本県でこれほど多様なイベントが開催されるのはおそらく初めてであり、spff 事業の成果のひとつであると思われます。

つきましては本事業の開催及び参加等につきまして広く県民の皆様へ周知いただけますようお願い申し上げます。

記

1．日時 平成 22 年 12 月 17 日（金）・18 日（土）

2．会場 福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ

3．内容

【12 月 17 日（金）】 14：00～17：30

14：15～15：00 基調講演

「サイエンスコミュニケーション活動における研究機関の果たす役割について」

講師：縣 秀彦 氏（自然科学研究機構国立天文台天文情報センター普及室長）

16：30～17：45 パネルディスカッション

パネリスト

「科学技術理解増進活動における地域連携とは」

藤田 貢崇 氏（北海道大学 高等教育推進機構高等教育研究部 特任准教授）

伊藤 真之 氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授 /

ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット）

崎山 智司 氏（山口大学大学院理工学研究科 教授 / 長州科楽維新プロジェクト）

コーディネーター

岡田 努（福島大学総合教育研究センター准教授 /

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム）

【12 月 18 日（土）】

10：00～16：00 spff サイエンス屋台村 「五感の科学」

（お問い合わせ先）

総合教育研究センター

担当 岡田 努

電話：024-548-5242

spff事業の特徴とは

1 ふくしまは“どこでも”かがく！

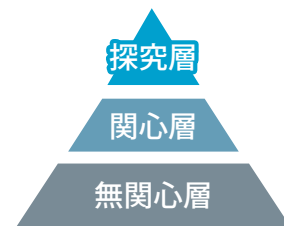


2 spff連携企画アイデアグリッド



業務も、専門分野もちがっているとき…どうやって「レンケイ」するの？
このグリッドシートの真ん中のテーマに関係する言葉を並べましょう。
あなたのどんなアプローチができますか？

3 無関心層から探究層へ



科学が嫌いな人、まったく関心のない人…科学への興味も様々です。spff事業では多様な視点から多くの皆様に科学にふれて学ぶ機会を提供しています。

spffサイエンス屋台村「五感の科学」開催！

日時 平成22年 **12月18日(土)**
9:30~16:00

会場 福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ

spffに参加している県内の科学館や企業、研究施設、大学、図書館などが「五感」にまつわる楽しい実験・工作メニューをもって「こむこむ」に登場します。
入場は無料。「みて、さわって、かいて、きいて、あじわえる五感で楽しむ科学の日！」



地域の自然と文化と科学にふれて学ぶ
ふくしまサイエンスぷらっとフォーム
science platform in fukushima

〔事務局〕
ふくしまサイエンスぷらっとフォーム事務局
国立大学法人福島大学共生システム理工学類 理工棟608
TEL.024-548-5347
URL: www.spff.jp E-mail: info@spff.jp

〔提案機関・運営機関〕

国立大学法人 **福島大学**
〒960-1296 福島県福島市金谷川11番地
www.fukushima-u.ac.jp/

国立大学法人 **福島大学**
Fukushima University

本事業はJST地域ネットワーク支援事業の支援により作成したものである。

独立行政法人科学技術振興機構「平成20年度地域ネットワーク支援事業」

独立行政法人科学技術振興機構「平成20年度地域ネットワーク支援事業」

地域の自然と文化と科学にふれて学ぶ

「ふくしまサイエンスぷらっとフォームの構築」

シンポジウム

地域における 科学技術理解増進活動の これから



日時 2010年 **12月17日(金)** 14:00~17:30

会場 福島市子どもの夢を育む施設 わいわいホール

主催: ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)

地域における科学技術理解増進活動のこれから

14:00 開 会 主宰者あいさつ

14:15 基調講演

『サイエンスコミュニケーション活動における研究機関の果たす役割について』
講師：縣 秀彦 氏 自然科学研究機構国立天文台天文情報センター普及室長

15:10 パネルディスカッション

『科学技術理解増進活動における地域連携とは』

パネリスト

藤田 貢崇 氏（北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部特任准教授）

伊藤 真之 氏（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授/ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット）

崎山 智司 氏（山口大学大学院理工学研究科准教授/長州科楽維新プロジェクト）

コーディネーター

岡田 努 （福島大学総合教育研究センター准教授/ふくしまサイエンスぶらっとフォーム）

18:00 懇親会（福島ビューホテル）

※表紙 横顔オブジェは 永山多貴子氏(郡山市美術館学芸員)制作

講師紹介



縣 秀彦

（自然科学研究機構国立天文台
科学文化形成ユニット長・准教授）

1961 年長野県生まれ、都内中・高校教諭を経て現職。専門は科学教育・科学コミュニケーション(教育学博士)。日本天文学会天文教材委員長、日本科学教育学会理事、NHK 高校講座講師、科学の鉄人実行委員長ほか。4 次元デジタル宇宙プロジェクト (<http://4d2u.nao.ac.jp/>)、科学文化形成ユニット (<http://prc.nao.ac.jp/ashub/>) などを手がける。

文部科学省科学技術振興調整費<地域再生人材創出拠点の形成>において「宇宙映像利用による科学文化形成ユニット」(平成 19 ～ 23 年度)および、JST 地域の科学舎推進事業「地域ネットワーク支援」において「東京サイエンスネットワークー地域の絆を世界の絆にー」(平成 21-23 年度)を担当しています。

持続発展可能な 21 世紀の国際社会と日本の役割を考えたとき、人々と科学のかかわり (Public Engagement) においては、科学技術理解増進活動 (Public Understanding of Science) という古い概念を超えて、社会と繋がる科学・社会のための科学という文脈と科学文化の形成という文脈が重要になります。

日常的なアウトリーチ活動のほか、科学を地域で文化として高める活動を地域の大学・研究機関・関連企業は支援していくことが望まれています。「東京国際科学フェスティバル」<http://tokyo.sci-fest.net/2010/ja/> と「アストロノミー・パブ」、「星と風のサロン」といったソーシャル・カルチベーション事業についてご紹介します。



spff シンポジウム開催にあたって…

テーマ：地域における科学技術理解増進活動のこれから

自然科学の研究成果が私たちの日々の暮らしに、どれほど大きな関わりをもっているのか皆さんご存知ですか。

科学は私たち人類の歴史の中で、様々な活動と密接にかかわって発展してきました。

しかしその存在が、意外と身近に感じられない方が多いのではないのでしょうか。

学校の「理科」では何を学ぶの？学校以外では「科学」のことをどうやって知ることができるの？

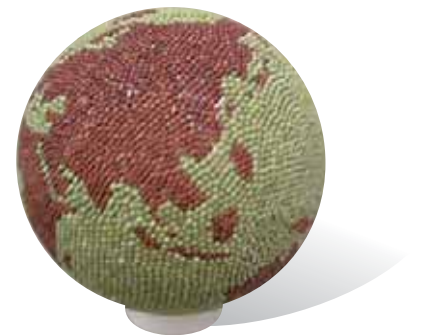
研究者は、自分の研究成果をどうやって私たち国民に知ってもらうの？

私たちは科学研究の成果や、課題をどうやって学んでいけばいいのでしょうか。

また科学を伝える側の人たちの取り組みはどうあるべきなのでしょう。

そもそも科学を伝える人たちは科学者だけ、なののでしょうか？

そういった科学普及に関わる課題について日々実践されている講師およびパネリストの皆さんと、共に考える「場」にしたいと考えています。



パネリスト紹介



藤田 貢崇（北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部特任准教授）

宇宙物理学や海洋物理学を研究し、科学技術振興機構 (JST) で科学技術理解増進活動の推進に従事する。2年前から北海道大学 CoSTEP でサイエンス・ライティングの指導。科学技術に関する翻訳なども手掛ける。

北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部に設置されている科学技術コミュニケーション教育研究部門 (通称 CoSTEP [コーステップ]) では、科学技術の専門家と一般市民との間で、科学技術をめぐる社会的諸課題について双方向的なコミュニケーションを確立し、科学技術の社会的重要性、それを学ぶことの意義や楽しさを効果的に伝達する役割を果たす人材 (科学技術コミュニケーター) を養成し、広く社会人にも開かれたプログラムを提供しています。

21 世紀は、研究者のアウトリーチ活動が一層求められると同時に、市民も科学技術の方向性について考えなければならない時代です。より多くの科学技術コミュニケーターが育ってほしいと願っています。



伊藤 真之（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授/ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット）

1988 年東京大学大学院修了 (理学博士)。文部省宇宙科学研究所助手などを経て現在神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授。現在の研究領域は、人工衛星などを用いた X 線による宇宙観測、月面の放射線観測などの宇宙物理学と、地域社会における広い意味の科学教育など。

科学と社会の関わりについて考える中、2005 年に科学者と市民の対話の場として神戸でサイエンスカフェを始め、2007 年に神戸大学サイエンスショップが設置されました。2008 年から J S T 地域ネットワーク支援を受け、兵庫県で科学コミュニケーションに関わるさまざまな人々と機関をつなぐネットワーク「ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット」の運営に取り組んでいます。活動では、市民が各地域で開催するサイエンスカフェに対する支援などに力を入れています。「科学・技術」はイノベーションを通じて物質的、経済的豊かさをもたらすものとして語られることが多いですが、人と自然が対話する「ことば」として、地域コミュニティを違った意味で豊かにする営みとして、人々の身近に「科学」が根づくことを願っています。



崎山 智司（山口大学大学院理工学研究科准教授・ものづくり創成センター副センター長兼任/長州科楽維新プロジェクト）

1959 年和歌山県生まれ。山口大学工学部助手、地域共同研究開発センター助教授を経て現職に至る。工学博士。専門はプラズマ工学。熱プラズマを用いた新素材開発等に従事。最近は産学連携による子供達の理科教育にも興味を持つ。

長州科楽維新プロジェクトは、産学公民で子供たちに科学の楽しさを伝えることにより、次世代の科学技術系人材を育てることを目的としています。最近の子供たちは、ゲームやパソコン等で遊び、人や自然とふれあうことがずいぶん少ないように思います。私達は、子供達が色々な職業の大人から色々なものの見方や考え方を教わることにより、感性豊かで好奇心いっぱいの子供になって欲しい、そしてやがては、飽くなき探求心と溢れ出る創造性を発揮し世界に冠たる日本の科学技術を牽引してゆく人材に育てほしい、そう期待して活動しています。最近日本人のノーベル賞受賞の快挙が続きます。全国各地で展開している私達のような地道な活動がこのような快挙を連続して生み出す原動力になれば、とスタッフ全員が夢見ています。

コーディネーター



岡田 努（福島大学総合教育研究センター准教授/ふくしまサイエンスぶらっとフォーム）

1968 年福島県生まれ。福島県中学校教諭・市教育委員会指導主事として科学館開設準備と科学館開設当初の企画運営を手掛ける、その後小中一貫教育校教諭を経て現職。専門は科学史・科学教育。博士 (国際文化)。科学史上の復元実験や再現実験による理科教育プログラム開発と、特に世界史や技術、芸術との関りに注目した科学普及活動に取り組む。

JST 地域ネットワーク支援事業により立ち上げた、ふくしまサイエンスぶらっとフォーム (spff) の事務局・コーディネーターを務めています。「ふくしま」には豊かな自然や歴史、文化、様々な産業…科学に関わる資源が数多く存在します。spff 事業の連携の中心は「人間」です。人間の諸活動は、時代や分野を超えて様々なつながりを持っています。そんな視点が伝える側に必要であり、その視点を「ふくしま」という地域を理解するための「科学コミュニケーション」活動にも取り入れています。皆さんにとって科学が身近な物となるような活動の展開を目指しています。